



平成 25(2013)年 3月 1日 第 48・49 合併号  
編 集 ・ 発 行 神 奈 川 県 内 大 学 図 書 館  
相 互 協 力 協 議 会  
平成 24 年度事務局 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1  
神奈川大学図書館  
電話 045(481)5661  
http://www.kulc.net/  
e-mail:kulc-office@kulc.net  
印 刷 株式会社江森印刷所  
電話 045(421)2297

## ◇平成 24 年度総会報告

平成24年度総会は、5月29日（火）午後1時30分から神奈川大学図書館視聴覚小ホールにおいて開催されました。

総会議事後には講演会を設定し、神奈川大学経済貿易研究所所長の場昭弘教授より「マルクス『資本論』から見た古版本—マルクスの作品と『資本論』で引用された作品—」と題してお話いただきました。

的場教授にご寄稿いただいた講演内容と議事概要を以下に掲載いたします。

また、閉会后、神奈川大学図書館の見学会が行われました。

### ＝講演＝

## 「マルクス『資本論』から見た古版本—マルクスの作品と『資本論』で引用された作品—」

神奈川大学教授 的場昭弘

本講演は本大学で所蔵しているマルクスの作品とそれに関する古版本を実際に見ることにポイントがあります。普段は貴重書室に収められているものばかりですが、今回は特別に図書館の視聴覚室にもってきていただきました。

ざっとマルクスの若いころからの作品を並べてみました。もちろんすべてがすべて最初に出たオリジナルな書物ではありません。リプリント版もかなり混じっています。

中でも特筆すべきものは、マルクスが幼少時代に書いた詩集で、それが二つもあります。こ

れらはマルクスの姉のゾフィーが持っていたもので、マルクスの詩もそこに収められています。他に所蔵しているのはモスクワの現代史研究所とドイツのトリアーのカール・マルクスハウスの二か所です。マルクスは若いころ詩人を志望していたため、かなり詩を書いています。この二つもマルクスの自筆ではないのですが、姉か誰かが筆写したものだと思います。

そのほか興味深いものは、『ニューヨーク・デイリー・トリビューン』ですが、完璧な揃いではありません。数点だけです。この新聞にマ



ルクスは10年以上ヨーロッパに関する原稿を寄稿していました。マルクス家の収入源はおもにエンゲルスからの仕送りでしたが、この新聞から毎月はいってくる原稿料もかなりの額に上っていました。南北戦争のころまでマルクスはほぼ毎週原稿を送っていました。

マルクスは1859年にカール・フォークトという人物からルイ・ナポレオンのスパイではないかと非難されますが、これに怒ったマルクスはそれに対してかなり長い批判書を書きます。『資本論』の執筆をそっちのけにして、この仕事に丸一年そそぎます。そしてこの書物は1860年出版されるのですが、この書物自体はあまり珍しいものではありません。むしろ珍しいのは、マルクスを批判した書物『アルゲマイネ・ツァイトゥングに対する私の訴訟』（1859）という書物の方です。二人の確執を知るには重要な文献です。

1871年のパリコミュンの際にマルクスが起草した第一インターナショナルの宣言文、すなわち『フランスの内乱』として後に出版されるパンフレットも所蔵しています。製本も当時のままであり、どういう形で宣言が起草されたのかを知る重要な資料でもあります。この翌年マルクスとエンゲルスは初めて『共産党宣言』に自分たちの名前を付して出版しますが、そのタイトルは『共産主義者宣言』でした。タイトルが変わったことも大きな意味がありますが、共

産主義者同盟の宣言に自分たちの名前を付したことも注目に値します。この第二版が本学には所蔵されています。二人の名前は外のタイトルページではなく、やや控えめに序文の最後にあります。この年には『資本論』第一巻の第二版も出版されました。当然ながら、『資本論』第一巻の初版もこの二版も所蔵しておりますし、その年にはさらにフランス語版とロシア語版の初版も出ましたが、これらも所蔵しております。特にフランス語版はマルクスがかなり丁寧に補足したのもあり、初版とはまったく違った趣をもっているともいえます。

マルクスのオリジナル文献をさらに充実させるためには、当然ながらまだまだ欠落しているものが多くあります。たとえば『独仏年誌』（1844）、『聖家族』（1845）、『哲学の貧困』（1847）、『共産党宣言』1848年初版（これは貴重で国内では慶応大学しか所蔵していないといわれています）、『経済学批判』（1859）などです。それ以外雑誌などに書いたものを合わせると絶望的ともいえるほど多くの欠落があるといつてよいでしょう。しかし、それはそれとしてリプリント版も入れるとかなりそろっているともいえます。今回は、マルクスが引用した書物も何点か展示していますが、その中でもスピノザの『遺稿集』（1677）と『神学政治論集』（1670）はかなり貴重なものだと思います。おそらく『エチカ』などを岩波文庫で翻訳された畠中尚志先



生がかつて本学におられたからというわけでしょうか。

現在私はマルクスの主要な書物を初版から翻訳しています。二年ほど前『共産党宣言』を作品社から出版しました。初版からの翻訳だけでなく、初版のドイツ語本文、そしてかなりながい逐語的注釈、そして『共産党宣言』と同時代に出た関連する書物の翻訳もつけています。当然ながらそこに各版の内容についての文献の書

誌的データも付しています。2013年春には『独仏年誌』に掲載された「ユダヤ人問題に寄せて」と「ヘーゲル法哲学批判-序説」の翻訳を同じ作品社から出版します。これも初版からの翻訳で、独文も掲載しております。また逐語的な注釈には書誌的なデータも書かれておりますので、よろしければこれを是非お読みいただくことをお願いいたします。

## ◆平成 24 年度総会議事報告

当日の出席は19館20名、委任状提出25校で、会則第9条第3項に則り総会は成立しました。議事は次のとおり進められました。

- |                     |    |                     |    |
|---------------------|----|---------------------|----|
| 1 平成24・25年度会長館及び連絡館 | 承認 | を行うことが承認された。        |    |
| 2 平成23年度事業報告        | 承認 | 6 平成24年度予算案（下記参照）   | 承認 |
| 3 平成23年度決算報告（下記参照）  | 承認 | 7 帝京大学薬学部図書館の退会について | 承認 |
| 4 平成23年度会計監査報告      | 承認 | 8 その他               |    |
| 5 平成24年度事業計画案       |    | ・会費納入依頼（【事務局報告】参照）  |    |
| 諸会議、会報発行等、例年にならって活動 |    | ・保管期間を過ぎた資料の廃棄報告    |    |

### 【平成23年度決算】

#### <収入の部>

1 会費	225,000円
2 その他（銀行利息）	90円
前年度繰越金	474,708円
合計	699,798円

#### <支出の部>

1 会議費	48,058円
2 事務費	42,983円
3 印刷・製本費	120,225円
4 研究活動費	0円
5 予備費	0円
次年度繰越金	478,532円
合計	699,798円

### 【平成24年度予算】

#### <収入の部>

1 会費	220,000円
2 前年度繰越金	478,532円
合計	698,532円

#### <支出の部>

1 会議費	70,000円
2 事務費	100,000円
3 印刷・製本費	150,000円
4 研究活動費	60,000円
5 予備費	318,532円
合計	698,532円

以上

## ◇平成 24 年度実務担当者会報告 「これからのレファレンス・サービスのあり方を考える」

平成24年度実務担当者会は、11月13日（火）午後1時30分から神奈川県立川崎大学1号館3階308会議室において開催されました。参加者は19館25名でした。

本年度の実務担当者会は、「これからのレファレンス・サービスのあり方を考える」というテーマとし、前半は、レファレンスに関する複数の著書で知られる神奈川県立川崎図書館科学情報課主査高田高史氏にご講演いただきました。後半は、講師の高田氏にコメンテーターとして参加いただき、各加盟館での事例を紹介し合い、現場での業務改善や問題解決等のための手掛かりとしていくことを目指し、情報共有を行いました。

当日は、講演、各館事例発表の後、希望者を対象に神奈川県立川崎大学図書館の見学会が行われました。

参加者の皆様には、お忙しい業務の合間に当実務担当者会にご参加いただき、まことにありがとうございました。

### ＝講演＝

神奈川県立川崎図書館科学情報課主査 高田高史

私は神奈川県立川崎図書館（以下、県立川崎図書館）の科学情報課に勤めています。現在は、3階の科学技術室および4階の社史室にて、レファレンス・サービスを含めたサービス全般を担当しています。県立川崎図書館は一般の公共図書館とは違って、ベストセラーの小説などは一冊もありません。科学技術と産業関係のみを扱う専門図書館です。専門雑誌のニーズが強い分野なので、図書よりも雑誌のほうが資料費も多いのも特色です。科学技術系に限った公共図書館は全国唯一です。大学図書館の方なら理工学部図書館のようなところを想像したほうがイメージしやすいと思います。

まず、実際に私が、どんなレファレンスを受けて回答しているか、いくつか事例をご紹介します。



一般の方から「ドバトを観察していて、ずっと親が卵を温めているようだが、父親と母親は交代しているのか」という質問を受けました。鳩の生態の本は、簡単に見つかりそ

うですが、探してみるとドバトと特定した資料はほとんどなく、多くはキジバトに関するものでした。私はドバトとキジバトの違いを調べた上で、『キジバトの仲間たち』（あすなろ出版、1992年）という児童書を見つけました。書名にある「仲間たち」にはドバトも含まれていて、抱卵の様子もきちんと説明されていました。この一冊を紹介して終わりにしてもいいのですが、都会の鳥が主題の本や、巣と卵の図鑑などもあわせて回答しました。直接の関係はないかもしれませんが、鳩の本や鳥の図鑑だけでなく、少し変わった切り口からも調べられると知っていただきたかったからです。余計なことかもしれませんが、ひょっとしたら役に立つかもしれないし、必要のない情報なら素通りしていただければいい、という考えです。

「病院での屋上緑化が出ている資料は」という問い合わせには、建築の分野を中心に探してみました。屋上緑化、各種建築、都市のまちづくりなどの本に加えて、実施事例が出ている雑誌文献も紹介しました。ケースバイケースですが、ズバリの資料が見つからないときの対応では、なるべくたくさん資料を並べるような回答をすることもあります。どれかが質問者の求めている情報と重なればいいし、何点かの資料をご覧いただきながら質問者の関心が絞れば、

それに沿う資料を案内しやすくなる、という意図です。

私の場合、文書での回答であれば、だいたいA4の紙1枚に収まるくらいの分量にまとめています。その質問に合わせて、利用者が何を求めているのか思い浮かべながら「回答を作る」というような感覚もあります。もちろん時間や労力を考慮することは大事です。

さて、このようにレファレンス・サービスをしています。県立川崎図書館は科学技術系の資料を扱っていても、私を含め職員のほとんどは文系出身者の司書で、理系の基礎的な知識に精通しているわけではありません。そこで、かねがね理工学分野の資料に関するレクチャーを受けられる機会を持ちたいと考えていました。まだ思うようにはできていませんが「専門家に資料を学ぶ」という職員研修会を数年前から始めています。これまでは、一級建築士で建築史がご専門の方、博士課程の大学院生、古生物が専門の学芸員の方に、所蔵資料を見ながら、レクチャーをしていただきました。定番の参考図書、基本的な雑誌の所蔵の有無、古い刊行物を利用する上での注意点、書庫にある貴重な本、どういう利用が想定されるかなど、多岐にわたる意見はとても参考になります。大学には専門の研究者や大学院生が周りに多くいらっしゃるので、この手の研修はやりやすいのではないのでしょうか。(余談ですが、もし県立川崎図書館の蔵書をチェックしてコメントしてくださる講師を紹介していただければ嬉しいです。謝金はありませんが、特典として書庫内を含めて貸し切りで県立川崎図書館をご利用いただけます。)

つぎに、2011年に刊行した著書『図書館で調べる』(ちくまプリマー新書)についてお話します。中高生を対象とした本なので、わかりやすく書くことに気を配りました。第1章は「分類からの発見」です。他の著書でも分類の説明から書き始めていたので、今回は変えたかったのですが、その後の構成がうまく流れないので、結局、分類から始めざるをえませんでした。何がどこにあるのかを知るのは、図書館を広く使いこなす上の前提です。私は、お店との比較や住所表示を例に説明しましたが、もっとわかりやすい説明の仕方もあるかもしれません。第3章の「検索の世界」では、検索をしてモニター



で見るのと、本をめくるという行為の似通った点や違った点、それぞれの長短を述べました。私的情報論のような内容です。図書館員の方には第4章の「情報のひねり出し方」が面白いかもしれません。見つからない情報をどう探すのか、簡単なテクニックをまとめてみました。中高生向けの本なので、大学図書館の司書の方には物足りない内容かもしれませんが、レファレンス・サービスや調べ方をわかりやすくガイドするにはどうすればいいか、などの参考にいただければ幸いです。

レファレンス・サービスの回答にあたっては、質問者に回答しておしまい、ではなく、プラスアルファを付けたいと考えています。たとえば、新しい資料に気がつくとか、各種の機能を知っていただくとか、自分でもうまく調べられるようになってもらいたいなど、いわば情報リテラシー活動の一環にしたいと思っています。『図書館で調べる』にも書きましたが、図書館員が調べる場合と、質問者自身が調べる場合では、調べる過程での関心の広がり方や気づき方、調べる楽しさが異なるはずです。

最後になりますが、県立川崎図書館は、全国屈指の社史コレクションなど特色ある資料を所蔵しています。しかし個性的であるがゆえに「知る人ぞ知る」になってしまいがちです。多くの方に資料を使っていただくことが、県有資産の価値の向上にもつながるように思えます。そうした背景もあって、資料の魅力や可能性を引き出そうと、今日のテーマのレファレンス・サービスはもちろん、各種の広報や、イベントによるきっかけ作りなどに力をいれています。大学とも積極的に協力・連携していきたいので、どうぞよろしく願いいたします。

## 各館の事例発表

高田氏の講演の後、各館によるレファレンス事例の発表と、その事例に対する意見交換会を実施しました。レファレンス事例は、実務担当者会開催日までにNDLレファレンス協同データベースの研修環境に各館が登録したものです(事前登録件数13件)。各館の持ち時間は一館につき5分とし、参加者からの質問やアドバイスを募り、高田氏にもアドバイザーとして参加をお願いしました。それぞれの大学の個性が表れたレファレンス事例も多く、興味深い事例検討会となりました。なお、当日の発表事例数は10件でした。以下にダイジェストを掲載します(順不同)。



### 【神奈川工科大学附属図書館】

**質問：**自動車エンジンにおける「工程積」の意味、計算方法を知りたい。

**回答概要：**冊子体のレファレンスブックとJapanKnowledge+で検索することで言葉の意味は判明したが、計算方法に関する説明を見つける事が出来なかった。そこでNetlibraryの全文検索機能を使い“行程容積”を検索したところ、求める計算方法が掲載されている書籍がヒット。当該資料を案内することで回答とした。

工科大学ならではの質問内容であった。また、昨今急速に普及しつつある電子書籍を使い解決の糸口を得た事例でもあり、参加者からは興味深いとの感想が寄せられた。電子書籍は全文検索が可能であり、今後は強力なレファレンスツールとして活用されていくことが予想される。

### 【湘南工科大学附属図書館】

**質問：**レポートなどで参考文献の出典を明記する場合どのようなルールで書いたらよいのか。

**回答概要：**SIST(科学技術情報流通技術基準)のHPの「参考文献の役割と書き方」を参考に例を作成して紹介。

回答としてはスタンダードなものだが、図書



館職員が担当する授業において学生から受けた質問であるとのことで、図書館職員の授業への係わりが興味深い事例報告であった。従来の情報探索法から情報選択法、更に情報表現法を教えるスキルが求められる中、図書館職員が備えるべきスキルとは何かを考えさせられる事例であった。

### 【湘北短期大学図書館】

**質問：**“相模”を“さがみ”と読むのはなぜか？

**回答概要：**各種地名辞典等を参照したが、明確な回答には至らなかった未解決事例。

未解決事例も重要なレファレンス事例であり、実務担当者会において検討するにはうってつけの事例である。高田氏からは、きっと調べはつくだろう、最終手段としては県立図書館にレファレンス依頼をしてもよいただろうというアドバイスをいただいた。

### 【神奈川大学図書館】

**質問：**洋書の見返し部分などに使用されているマーブル紙の種類と名称を知りたい。

**回答概要：**図書館において開催した館内展示の準備調査を事例として登録。図書館では利用者からの問い合わせに答える以外にも、図書館職員自身が展示やその他業務

で様々な調査をしている。それらの調査もレファレンス事例の一つとして役に立つだろうという考えの下、レファレンス協同データベースに登録した事例であった。

#### 【横浜創英大学図書館】

**質問：**『別冊医学のあゆみ』に掲載されている「新うつ病のすべて」を読みたい。著者名も分かっており去年発行されたもので、医中誌Webで見た。

**回答概要：**医中誌Webで該当論文を検索したがヒットするものがない。検索条件を変えて再検索したところ、「最新うつ病のすべて」という特集名だった。

質問者の記憶違いや勘違いは良くあること。質問者からの情報を元に調査しつつも鵜呑みにせず、ヒットしなければ検索条件を代えたり、別角度からの調査を試みてみたりする。日常業務で多くの実務担当者が経験する事例であり、共感を呼んだ。

#### 【慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター】

**質問：**就職活動するにあたって企業側からの人選基準について知りたい。

**回答概要：**「東洋経済デジタルコンテンツライブラリー」の『就職四季報』、『就職四季報・女子版』を薦めるとともに、企業によってはホームページの採用・人材情報において求める人材情報が掲載されており、いくつかの企業を例に説明を行った。

参加者からは、学内他部署との連携(今回の事例においては就職担当部署)に関する話題提

供がなされた。

#### 【東京工芸大学中央図書館】

**質問：**卒業生の作品で寄贈された写真集を借りた学生から、他には無いのか。また、今後収集していく予定があるのかについての問い合わせ。

**回答概要：**現在は収集していく計画は無いが、継続してある程度系統的にコレクションし、いけるかなども含めて検討していきたい。

卒業生が出版した刊行物を組織的に収集する方針を打ち出している例としては、実践女子大学図書館の「同窓生文庫」や芝浦工業大学「卒業生及び本学教職員出版コーナー」などがあるが、まだ数は少ない。大学図書館における収集方針の一つの基準として、検討の価値のある課題の提起であった。

\*\*\*\*\*

その他、紙面の都合上詳細はご紹介できませんが、下記の発表がなされたことをご報告します。

【関東学院大学図書館】「LPレコードの衰退が分かる統計が欲しい。」

【相模女子大学附属図書館】「ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの1人あたりの売上高とそれに占めるグッズの割合が分かるデータがほしい。」

【桐蔭横浜大学大学情報センター】「夏目漱石の『こころ』を読みたい。」

最後に、今回の実務担当者会の準備にあたり、レファレンス協同データベースの研修環境の利用を快諾していただいた国立国会図書館ならびに担当者の方々に感謝申し上げます。



## 【事務局報告】

### ◎総会開催

日程：平成24年5月29日（火）  
場所：神奈川大学図書館視聴覚小ホール  
講演：「マルクス『資本論』から見た古バージョン—マルクスの作品と『資本論』で引用された作品—」  
神奈川大学経済貿易研究所所長  
的場昭弘教授

・各館の事例発表

### ◎調査の実施

- 名簿記載事項および相互利用マニュアルウェブ版記載事項確認調査
- 平成23年度共通閲覧証による相互利用統計調査

上記2件の調査について6月26日に会員館に依頼し、回答をもとに「神奈川県内大学図書館相互協力協議会会員館名簿（平成24年度）」および「同 共通閲覧証利用統計（平成23年度）」を作成し、8月20日「相互利用マニュアルウェブ版」の更新を行いました。

記載事項の確認調査へのご協力、まことにありがとうございました。

### ◎平成24年度会費徴収報告

会費納入について5月29日の総会にて依頼し、11月14日に全会員館からの入金を確認いたしました。

### ◎平成24年度実務担当者会開催

日程：平成24年11月13日（火）  
場所：神奈川大学 1号館会議室  
テーマ：これからのレファレンス・サービスのあり方を考える  
・講演  
「レファレンス・サービスの考え方と資料の魅力の引き出し方」  
神奈川県立川崎図書館  
科学情報課 主査 高田高史氏

### ◎平成24年度連絡会

- 第1回 5月29日（火）
- 第2回 11月13日（火）

神奈川大学にて開催いたしました。議事録はメールリストにより会員館に送付済です。また、第3回については、連絡館用メールリストにより打合せを行う予定です。

### ◎横浜市内大学図書館コンソーシアム平成24年度第1回研修会の開催について

横浜市内大学図書館コンソーシアムより、当協議会に次のとおり、同コンソーシアムの平成24年度第1回研修会開催の案内がありました。なお、詳細については、全会員館用メールリストにて別途お知らせしております。

日程 平成24年11月14日（水）  
場所 神奈川県立図書館 新館1階多目的ホール  
テーマ 「今、あらためて図書館コンソーシアムの今後を考える：KL-NETの有効性」（講師 神奈川県立図書館企画サービス部企画協力課 森谷芳浩氏）

### ◎神奈川県内大学図書館相互協力協議会

ホームページ <http://www.kulc.net/>  
メールリスト  
全会員館用：kulc@kulc.net  
連絡館用：kulc-r@kulc.net  
※登録アドレス、名簿記載事項の変更は事務局までご連絡ください。  
共通閲覧証の追加、その他ご意見ご要望につきましても、事務局までご連絡ください。  
事務局：kulc-office@kulc.net